

令和 7 年度第 1 回広島市地域公共交通活性化協議会

陸上交通分科会（書面審議） 配布資料

【議案】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画等に基づく事業）案について

- ・ 付議案件概要
- ・ 【別添 1-1】 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）
- ・ 【別添 1-2】 事業実施と地域公共交通計画等との関連について
- ・ 【別添 2】 地域公共交通計画（地域内フィーダー系統）概要及び事業の評価

広島市地域公共交通活性化協議会陸上交通分科会 委員名簿

令和8年1月14日現在

氏 名	役 職 等
橋本 英士○	広島市道路交通局 公共交通政策部長
薦 真	国土交通省中国運輸局広島運輸支局 首席運輸企画専門官
水本 全彦	広島県地域政策局 公共交通政策課長
赤木 康秀	公益社団法人広島県バス協会 専務理事
山口 昭博	一般社団法人広島県タクシー協会 専務理事
大畑 直樹	有限会社やぐちタクシー 代表取締役
尾崎 勝	有限会社中野タクシー 代表取締役
山崎 勇二	株式会社フォーブル 専務取締役
片山 哲也	有限会社カオル交通 代表取締役
磯川 浩治	広島交通株式会社 取締役執行役員営業部長
面迫 孝文	朝日交通株式会社 代表取締役
山内 恭輔	つばめ交通株式会社 代表取締役
伊藤 慎一郎	はと第一交通株式会社 所長
花岡 秀城	熊野町住民生活部 生活環境課長
小椿 治之	北広島町 まちづくり推進課長

○：会長

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画等に基づく事業）案について

1 実施事業者

- (1) 有限会社やぐちタクシー
- (2) 有限会社中野タクシー
- (3) 株式会社フォーブル
- (4) 有限会社カオル交通
- (5) つばめ交通株式会社
- (6) はと第一交通株式会社
- (7) 広島交通株式会社
- (8) 朝日交通株式会社

2 内容

令和7年度事業（令和6年10月1日～令和7年9月30日）に関する評価

3 地域公共交通確保維持改善事業評価案

別添1－1、別添1－2及び別添2のとおり

4 根拠規定

地域公共交通確保維持改善事業実施要領 8－(1)－①

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（一部抜粋）

8. 事業評価について

(1) 事業評価の実施

①自己評価（一次評価）

地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、協議会自らによる事業の実施状況の確認、評価（以下「自己評価」という。）を行い、当該自己評価の結果を、地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業にあっては、補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに、地域公共交通バリア解消促進等事業にあっては、補助金の交付を受けた会計年度の翌年度の1月末までにそれぞれ協議会から、地方運輸局、神戸運輸監理部、地方航空局又は沖縄総合事務局（以下「地方運輸局等」という。）に報告するとともに、公表することとする。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画等に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名： 広島市地域公共交通活性化協議会陸上交通分科会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※全系統に係る収支率及び広島市の補助 額の目標については、欄外に記載	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者：(南)やぐちタクシー 運行系統：系統①	フレスタロ田南店前～コープ高 陽前・矢口駅～フレスタロ田南 店前(8.8km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	A 1便当たりの平均利用者数3.5 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.2人であり、目標が 達成された。 また、事業の効果として掲げ た、交通不便地域の高齢者等 の日常生活に必要な不可欠な移 動手段を確保することができ た。	引き続き、商業施設と連携し た割引制度を実施するなど、利 用促進に努める。
事業者：(南)やぐちタクシー 運行系統：系統②	フレスタロ田南店前～コープ高 陽前・矢口駅～上矢口上(10.0 km)				
事業者：(南)中野タクシー 運行系統：上平原線	上平原～JR安芸中野駅前～ 安芸市民病院(往路8.9km、復路 9.0km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1回当たりの平均利用者数5.9 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.9人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	昨年ルート変更を行った際 に、改めて時刻表の周知を行っ たところであることから、その 後の利用状況を注視しつつ、引 き続き、商業施設と連携した割 引制度を実施するなど、利用促 進に努める。
事業者：(南)中野タクシー 運行系統：山王押手上線	山王桜台～JR安芸中野駅前 ～安芸市民病院(往路11.3km、 復路11.3km)				
事業者：(株)フォーブル 運行系統：大塚西	下城ハイツ上～大原駅・アシ ティ中央～下城ハイツ上 (13.6km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	A 1便当たりの平均利用者数3.8 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.4人であり、目標が 達成された。 また、事業の効果として掲げ た、交通不便地域の高齢者等 の日常生活に必要な不可欠な移 動手段を確保することができ た。	引き続き、利用状況を掲載し た広報誌による周知を行うな ど、利用促進に努める。
事業者：(南)カオル交通 運行系統：系統1	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆 待川駅前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1便当たりの平均利用者数4.6 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.2人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	引き続き、フリーマーケットの 実施を通して乗合タクシーの周 知を行うことに加え、来年度か らバス停が乗合タクシーの乗降 場所の付近に移設され、乗継 の利便性が向上することから、 乗合タクシーの車中にバス停 移設のチラシを配架するなど、 利用促進に努める。
事業者：(株)カオル交通 運行系統：系統2	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆 待川駅前～アルゾ前(12.0km)				
事業者：つばめ交通(株) 運行系統：系統1	ユアーズ～福田停留所(上)～ ユアーズ(9.4km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1便当たりの平均利用者数4.9 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.0人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	引き続き、商業施設や公民館 への時刻表の配架による周知 を行うことに加え、地域イベント 等への車両の展示を検討する など、利用促進に努める。
事業者：つばめ交通(株) 運行系統：系統2	ユアーズ～福田停留所(上)～ セブンイレブン(11.5km)				
事業者：(はと第一交通(株)) 運行系統：戸坂ともいきタク シー	戸坂地区(区域運行)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1便当たりの平均利用者数3.0 人という目標に対し、令和7年度 の実績は2.8人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	引き続き、協賛企業等へのス テッカーの貼付による周知を行 うことに加え、乗降ポイントマ ップの見直しを行うなど、利用 促進に努める。
事業者：広島交通(株) 運行系統：今吉田フィー ダー(56010)	可部駅前～北部医療センター ～今吉田公民館(28.6km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	A 1回当たりの平均利用者数7.7 人という目標に対し、令和7年度 の実績は9.2人であり、目標が 達成された。 また、事業の効果として掲げ た、交通不便地域の高齢者等 の日常生活に必要な不可欠な移 動手段を確保することができ た。	引き続き、公民館や出張所へ の時刻表の配架による周知を 行うなど、利用促進に努める。
事業者：広島交通(株) 運行系統：今吉田フィー ダー(56020)	可部駅前～上大毛寺～今吉田 公民館(27.8km)				
事業者：朝日交通(株) 運行系統：阿戸線(501)	熊野営業所～熊野町役場～初 神～新宮～阿戸学校(9.8km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1回当たりの平均利用者数6.4 人という目標に対し、令和7年度 の実績は5.9人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	地元自治会から意見のあった ダイヤの見直し等について事 業者と協議を進めるなど、利用 促進に努める。
事業者：朝日交通(株) 運行系統：阿戸線(502)	阿戸学校～新宮～初神～萩原 下～フジ熊野店(7.9km)				

【全系統に係る収支率及び広島市の補助額の目標】

収支率14.3%、広島市の補助額36,049千円という目標に対し、令和7年度の実績は収支率13.5%、広島市の補助額38,634千円(見込額)であり、目標は達成されなかった。

今後、各系統について、上述している利用促進策を行い、改善に努める。

【別添1-2】

事業実施と地域公共交通計画等との関連について

令和8年1月 日

協議会名：	広島市地域公共交通活性化協議会陸上交通分科会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>広島市は人口約120万人、面積約900km²で、市域内の主な公共交通として、JR山陽本線、呉線、可部線及び芸備線、広島電鉄宮島線及び市内線、新交通システム(アストラムライン)等の様々な鉄軌道系公共交通機関並びに約600系統の路線バスがある。</p> <p>平野部周辺の丘陵地等では、昭和40～50年代にかけて数多くの団地が開発され、こうした団地では住民の高齢化が進展し、免許返納等により交通手段を持たない高齢者等の移動困難な住民が増加している中、幹線交通や医療機関、商業施設等へアクセスする移動手段の確保が課題となっている。</p> <p>このため、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用しながら、公共交通の維持確保を図っていくこととしている。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画等に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名： 広島市地域公共交通活性化協議会陸上交通分科会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※全系統に係る収支率及び広島市の補助 額の目標については、欄外に記載	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者：(南)やぐちタクシー 運行系統：系統①	フレスタロ田南店前～コープ高 陽前・矢口駅～フレスタロ田南 店前(8.8km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	A 1便当たりの平均利用者数3.5 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.2人であり、目標が 達成された。 また、事業の効果として掲げ た、交通不便地域の高齢者等 の日常生活に必要な不可欠な移 動手段を確保することができ た。	引き続き、商業施設と連携し た割引制度を実施するなど、利 用促進に努める。
事業者：(南)やぐちタクシー 運行系統：系統②	フレスタロ田南店前～コープ高 陽前・矢口駅～上矢口上(10.0 km)				
事業者：(南)中野タクシー 運行系統：上平原線	上平原～JR安芸中野駅前～ 安芸市民病院(往路8.9km、復路 9.0km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1回当たりの平均利用者数5.9 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.9人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	昨年ルート変更を行った際 に、改めて時刻表の周知を行っ たところであることから、その 後の利用状況を注視しつつ、引 き続き、商業施設と連携した割 引制度を実施するなど、利用促 進に努める。
事業者：(南)中野タクシー 運行系統：山王押手上線	山王桜台～JR安芸中野駅前 ～安芸市民病院(往路11.3km、 復路11.3km)				
事業者：(株)フォーブル 運行系統：大塚西	下城ハイツ上～大原駅・アシ ティ中央～下城ハイツ上 (13.6km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	A 1便当たりの平均利用者数3.8 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.4人であり、目標が 達成された。 また、事業の効果として掲げ た、交通不便地域の高齢者等 の日常生活に必要な不可欠な移 動手段を確保することができ た。	引き続き、利用状況を掲載し た広報誌による周知を行うな ど、利用促進に努める。
事業者：(南)カオル交通 運行系統：系統1	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆 待川駅前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1便当たりの平均利用者数4.6 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.2人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	引き続き、フリーマーケットの 実施を通して乗合タクシーの周 知を行うことに加え、来年度か らバス停が乗合タクシーの乗降 場所の付近に移設され、乗継 の利便性が向上することから、 乗合タクシーの車中にバス停 移設のチラシを配架するなど、 利用促進に努める。
事業者：(株)カオル交通 運行系統：系統2	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆 待川駅前～アルゾ前(12.0km)				
事業者：つばめ交通(株) 運行系統：系統1	ユアーズ～福田停留所(上)～ ユアーズ(9.4km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1便当たりの平均利用者数4.9 人という目標に対し、令和7年度 の実績は4.0人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	引き続き、商業施設や公民館 への時刻表の配架による周知 を行うことに加え、地域イベント 等への車両の展示を検討する など、利用促進に努める。
事業者：つばめ交通(株) 運行系統：系統2	ユアーズ～福田停留所(上)～ セブンイレブン(11.5km)				
事業者：(はと第一交通(株)) 運行系統：戸坂ともいきタク シー	戸坂地区(区域運行)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1便当たりの平均利用者数3.0 人という目標に対し、令和7年度 の実績は2.8人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	引き続き、協賛企業等へのス テッカーの貼付による周知を行 うことに加え、乗降ポイントマ ップの見直しを行うなど、利用 促進に努める。
事業者：広島交通(株) 運行系統：今吉田フィー ダー(56010)	可部駅前～北部医療センター ～今吉田公民館(28.6km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	A 1回当たりの平均利用者数7.7 人という目標に対し、令和7年度 の実績は9.2人であり、目標が 達成された。 また、事業の効果として掲げ た、交通不便地域の高齢者等 の日常生活に必要な不可欠な移 動手段を確保することができ た。	引き続き、公民館や出張所へ の時刻表の配架による周知を 行うなど、利用促進に努める。
事業者：広島交通(株) 運行系統：今吉田フィー ダー(56020)	可部駅前～上大毛寺～今吉田 公民館(27.8km)				
事業者：朝日交通(株) 運行系統：阿戸線(501)	熊野営業所～熊野町役場～初 神～新宮～阿戸学校(9.8km)	地域の移動手段として定着す るよう、計画に基づいた適切な 運行を行うとともに、周知活動 を行うなど、利用促進を図っ た。	A 計画に位置付けられたとお り、事業は適切に実施され た。	B 1回当たりの平均利用者数6.4 人という目標に対し、令和7年度 の実績は5.9人であり、目標は 達成されなかったものの、事業 の効果として掲げた、交通不便 地域の高齢者等の日常生活に 必要不可欠な移動手段を確保 することができた。	地元自治会から意見のあった ダイヤの見直し等について事 業者と協議を進めるなど、利用 促進に努める。
事業者：朝日交通(株) 運行系統：阿戸線(502)	阿戸学校～新宮～初神～萩原 下～フジ熊野店(7.9km)				

【全系統に係る収支率及び広島市の補助額の目標】

収支率14.3%、広島市の補助額36,049千円という目標に対し、令和7年度の実績は収支率13.5%、広島市の補助額38,634千円(見込額)であり、目標は達成されなかった。

今後、各系統について、上述している利用促進策を行い、改善に努める。

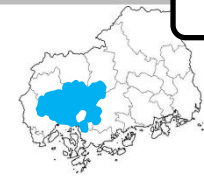
【別添1-2】

事業実施と地域公共交通計画等との関連について

令和8年1月 日

協議会名：	広島市地域公共交通活性化協議会陸上交通分科会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>広島市は人口約120万人、面積約900km²で、市域内の主な公共交通として、JR山陽本線、呉線、可部線及び芸備線、広島電鉄宮島線及び市内線、新交通システム(アストラムライン)等の様々な鉄軌道系公共交通機関並びに約600系統の路線バスがある。</p> <p>平野部周辺の丘陵地等では、昭和40～50年代にかけて数多くの団地が開発され、こうした団地では住民の高齢化が進展し、免許返納等により交通手段を持たない高齢者等の移動困難な住民が増加している中、幹線交通や医療機関、商業施設等へアクセスする移動手段の確保が課題となっている。</p> <p>このため、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用しながら、公共交通の維持確保を図っていくこととしている。</p>

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 広島市地域公共交通活性化協議会陸上交通分科会 地域公共交通計画(地域内フィーダー系統)の概要



広島市の概要

- ・人口 1,200,754人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 905.41km²

協議会の構成員

広島市、広島県、中国運輸局広島運輸支局、熊野町、北広島町、(公社)広島県バス協会、(一社)広島県タクシー協会、(有)やぐちタクシー、(有)中野タクシー、(株)フォーブル、(有)カオル交通、つばめ交通(株)、はと第一交通(株)、広島交通(株)、朝日交通(株)

概 要

広島市は人口約120万人、面積約900km²で、市域内の主な公共交通として、JR山陽本線、呉線、可部線及び芸備線、広島電鉄宮島線及び市内線、新交通システム(アストラムライン)等の様々な鉄軌道系公共交通機関並びに約600系統の路線バスがある。

平野部周辺の丘陵地等では、昭和40～50年代にかけて数多くの団地が開発され、こうした団地では住民の高齢化が進展し、免許返納等により交通手段を持たない高齢者等の移動困難な住民が増加している中、幹線交通、医療機関や商業施設等へアクセスする移動手段の確保が課題となっている。

こうしたことから、広島市においては、幹線交通と接続し、地域間交通ネットワークを補完する支線としての機能を有するバス路線の維持・存続を図るほか、路線バス等公共交通サービスの提供されていない地域において、地域が主体となって生活交通を確保しようとする取組を支援しており、現在、6地区で乗合タクシーが運行されている。

協議会の主な取り組み

- ・広島市地域公共交通計画「別紙」(旧フィーダー計画)の策定及び実施事業に係る評価

協議会における検討

協議会の開催状況 開催回数:3回

- ・令和6年 3月 8日 広島市地域公共交通計画「別紙」(案)について
- ・令和6年11月20日 交通不便地域の指定申請について等(書面審議)
- ・令和7年 3月14日 広島市地域公共交通計画「別紙」の変更に
ついて等(書面審議)

定量的な目標・効果

- (目標) 口田地区 1便当たりの平均利用者数を3.5人以上とする(令和6年度実績3.9人)
 中野・中野東地区 1回当たりの平均利用者数を5.9人以上とする(令和6年度実績4.8人)
 大塚西地区 1便当たりの平均利用者数を3.8人以上とする(令和6年度実績3.9人)
 可部・亀山地区 1便当たりの平均利用者数を4.6人以上とする(令和6年度実績4.7人)
 福田地区 1便当たりの平均利用者数を4.9人以上とする(令和6年度実績4.3人)
 戸坂地区 1便当たりの平均利用者数を3.0人以上とする(令和6年度実績0人)
 今吉田線 1回当たりの平均利用者数を7.7人以上とする(令和6年度実績8.8人) ※車両減価償却費補助:対象車両数3台
 阿戸線 1回当たりの平均利用者数を6.4人以上とする(令和6年度実績6.4人) ※車両減価償却費補助:対象車両数2台
- (効果) 当該路線を維持・確保することで、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・「周知活動を行うなど、利用促進に努める」とした点について、地元広報誌での乗合タクシーの紹介や、スーパーと協力した割引制度を実施するなど、周知を図った。

実施した利用促進策

各地区において、以下の利用促進を図った

- ・商業施設と協力した割引制度を実施(口田地区)
- ・商業施設と協力した割引制度を実施(中野・中野東地区)
- ・毎月広報誌を作成し配布(大塚西地区)
- ・フリーマーケットを実施し、乗合タクシーを周知(可部・亀山地区)
- ・商業施設や公民館に時刻表を配架することによる周知(福田地区)
- ・協賛してもらった病院や企業に、協賛のステッカーを配り、貼付してもらうことによる周知(戸坂地区)
- ・公民館や出張所へ時刻表の配架による周知(今吉田線)
- ・GTFSの導入による利便性向上(阿戸線)

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・「現在の利用者の動向について分析し、必要なサービス水準の維持と併せ、利用者以外の住民等からの意見も把握することで、新たな利用者の獲得が図られることを期待します」との点を踏まえ、住民を交えた地域の協議会等において、利用促進策の検討を行った。

地域住民の意見の反映

町内会や社協の代表者、行政等で構成される、各地区の支援協議会等において、利用者の意見をもとに、サービス向上や運行計画の見直しについて検討した。

事業実施の適切性

乗合タクシーを運行する全6地区及びバス路線(今吉田線、阿戸線)において、計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。

目標・効果達成状況

(目標)

口田地区	1便当たりの平均利用者数3.5人という目標に対し、令和7年度の実績は4.2人であり、目標は達成された
中野・中野東地区	1回当たりの平均利用者数5.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.9人であり、目標は達成されなかった
大塚西地区	1便当たりの平均利用者数3.8人という目標に対し、令和7年度の実績は4.4人であり、目標は達成された
可部・亀山地区	1便当たりの平均利用者数4.6人という目標に対し、令和7年度の実績は4.2人であり、目標は達成されなかった
福田地区	1便当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.0人であり、目標は達成されなかった
戸坂地区	1便当たりの平均利用者数3.0人という目標に対し、令和7年度の実績は2.8人であり、目標は達成されなかった
今吉田線	1回当たりの平均利用者数7.7人という目標に対し、令和7年度の実績は9.2人であり、目標は達成された
阿戸線	1回当たりの平均利用者数6.4人という目標に対し、令和7年度の実績は5.9人であり、目標は達成されなかった

全系統に係る収支率及び広島市の補助額

収支率14.3%、広島市の補助額36,049千円という目標に対し、令和7年度の実績は収支率13.5%、広島市の補助額38,634千円であり、目標は達成されなかった

(効果) 運行を継続することにより、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保した。

事業の今後の改善点

【乗合タクシーを運行する6地区】

運行主体である地元協議会が定期的に会議を開催し、利用促進策の実施・検討を行っているところである。加えて、令和7年度には、各地区の協議会の委員の意見交換会を開催し、各地区の優良な取組等の共有を行った。

今後、各地区において、意見交換会で得られた他地区の取組を参考に、チラシやweb上での周知、商業施設と協力した割引制度の導入など、さらなる利用促進策の実施を検討していく。また、路線バスとの乗継の利便性の向上や地域外の人にも利用しやすくなるようGTFSの整備を検討する。

【今吉田線・阿戸線】

地元自治会に行ったヒアリングにおいて、ダイヤが使いづらいなどの意見があり、バス事業者と改善に向けた協議を行ったところである。今後、利用状況も勘案しつつ、ダイヤや運行ルート等の改善を検討する。

交通体系図 別紙

乗合タクシー導入地区一覧

【凡例】 本格運行地区…



安佐南区大塚西部地区

実施主体：大塚・伴南地区生活

交通支援協議会

運行会社：南フェニックス

運行形態：路線定期

開始時期：平成29年10月

※実験運行期間（H28.10.1～

H29.9.30）

運行回数：5便/日（月、水、金）

運賃：1回：300円

中学生：200円

小学生：100円

キロ程：13.5km（55分）

運行経路：下城ハイツ上～伴中央

駅～大塚駅～下城ハイ

ツ上～下城ハイツ上～

大塚小学校前～Aシテ

ィ中央～下城ハイツ上



安佐北区部・龜山地区

実施主体：福王寺不動坂らくらく

タクシー活性化協議会

運行会社：南力オール交通

運行形態：路線定期

開始時期：平成30年5月

※実験運行期間（H29.5.15～

H30.5.13）

運行回数：【系統1】1便/月、水、金

【系統2】4便/月、水、金

キロ程：【系統1】8.1km（40分）

【系統2】12.0km（55分）

運賃：1回300円

小学生以下無料

運行経路：アルソ前～温泉が丘第1～サ

ンリブ前～安佐北区役所前～

アルソ前（～温泉が丘第4～

アルソ前）※○内は第1便

のみ



安佐北区口田地区

実施主体：やぐちおもいやりタクシー活

性化協議会

運行会社：やぐちタクシー

運行形態：路線定期

開始時期：平成15年8月

※実験運行期間（H16.11.15～H16.12.12）

運行回数：平日10便

キロ程：【奇数便】約8.8km（30分）

【偶数便】約10.0km（35分）

運賃：1回300円

小学生以下無料

運行経路：フレスタ口田駅前～ふじランド

～上矢口地区～梅園地～スーパ

ー病院～JR安佐北口駅～フレ

スタ口田駅前（～ふじランド～上

矢口地区）

※○内は偶数便のみ



東区福田地区

実施主体：福田地区生活あいタクシ

ー協議会

運行会社：つばめ交通㈱

運行形態：路線定期

開始時期：令和5年4月

※実験運行期間（R4.4.25～R5.5.24）

運行回数：6便/日（月、水、金）

キロ程：【系統1】9.0km（45分）

【系統2】11.5km（54分）

【系統3】9.4km（50分）

運賃：1回300円等

運行経路：ユアーズ（※1）～さつき原山

地～ユアーズ～大和台地～観

音原台地～セブンイレブン（※2）

※1：第1便のみセブンイレブン并

※2：第2、4、6便ユアーズ止



東区戸坂地区

実施主体：戸坂ともいきタクシー運

営協議会

運行会社：はと第一交通㈱

運行形態：区域運行

開始時期：令和6年12月

※実験運行期間（R5.12.20～R6.12.19）

運行回数：8便/日（月～土）

運賃：大人350円等

運行区域：戸坂中学校区



安芸区中野・中野東地区

実施主体：中野・中野東地区乗合タクシー運

行支援協議会

運行会社：南中野タクシー

運行形態：路線定期

開始時期：平成24年11月

※実験運行期間（H23.11.1～H24.10.31）

運行回数：【上平原線】往復4便/日（月、水、木）

【山王手線】往復4便/日（水、金）

キロ程：【上平原線】往路8.9km（39分）

復路9.0km（36分）

【山王手線】往路11.1km（36分）

復路11.1km（35分）

運賃：大人：300円

小学生：100円

運行経路：【上平原線】上平原～JR中野東駅～A

コープ中野店～安芸市民病院

【山王手線】山王手～ひまわり

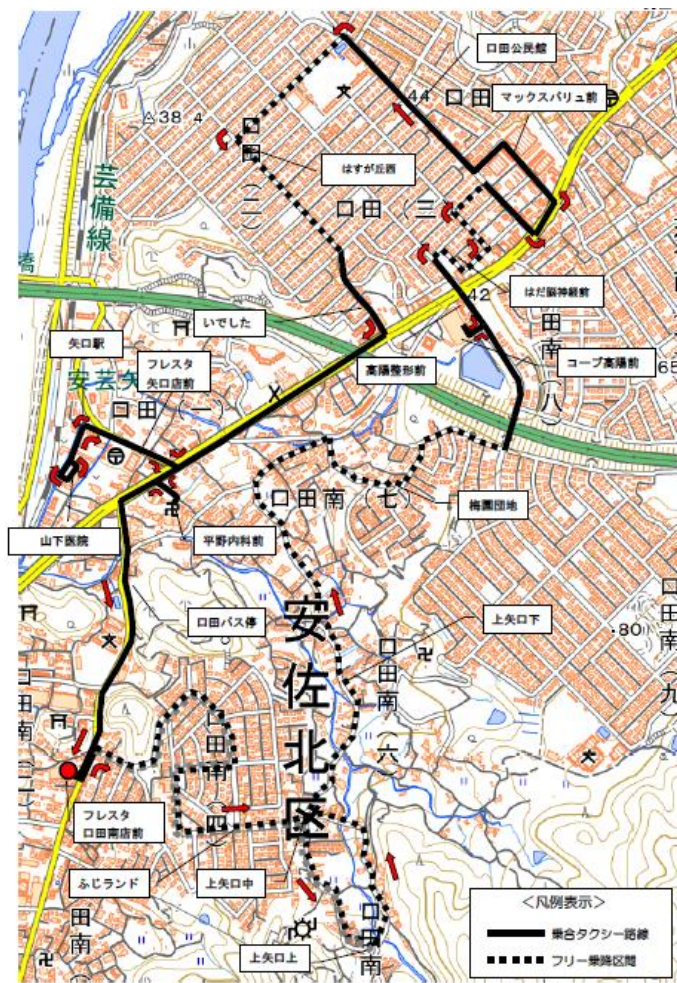
・ダイキ前～JR安芸中野駅前～ユア

ーズ～安芸市民病院



運行系統図 別紙

系統名	口田地区 系統①, ②
運行形態	4条路線 定時定路線型
運行日・便数	平日 系統①(フレスタ口田南店前～矢口駅) 5便 平日 系統②(フレスタ口田南店前～矢口駅～上矢口上) 5便 ※ 系統①、②ともに、1便目はコープ高陽前を経由しない。
運賃	大人300円(往復利用の場合、復路は100円(当日限り))、小学生以下無料(保護者同伴に限る)

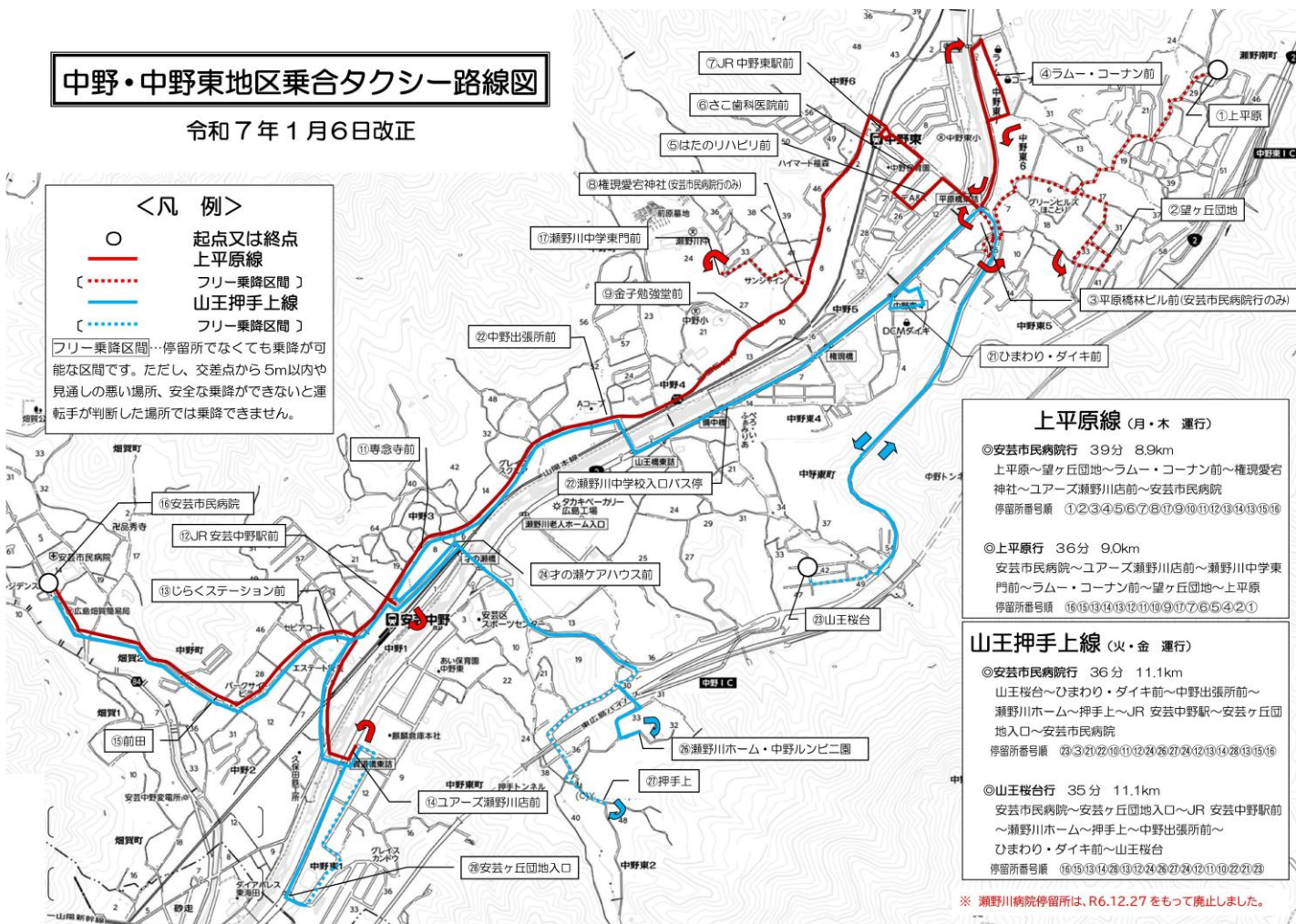


運行系統図 別紙

系統名	中野・中野東地区 上平原線、山王押手上線
運行形態	4条路線 定時定路線型
運行日・便数	上平原線 月・木曜日 各日8便(4往復) 山王押手上線 火・金曜日 各日8便(4往復)
運賃	大人300円、小学生100円(小学生未満無料)

中野・中野東地区乗合タクシー路線図

令和7年1月6日改正

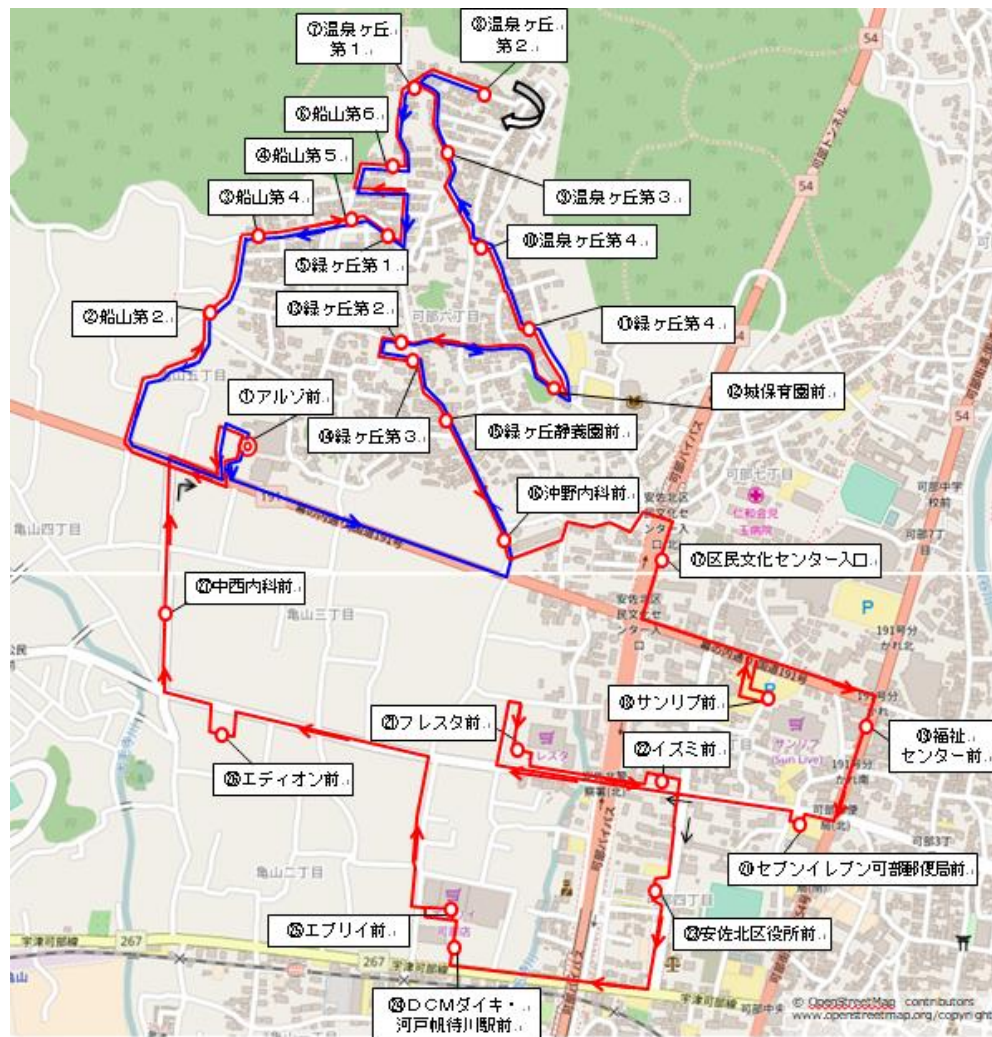


系統名	大塚西地区 大塚西系統
運行形態	4条路線 定時定路線型
運行日・便数	大塚西系統 月・水・金 各日5便
運賃	大人300円、中学生200円、小学生100円(保護者同伴の場合、1人無料)

[illegible]

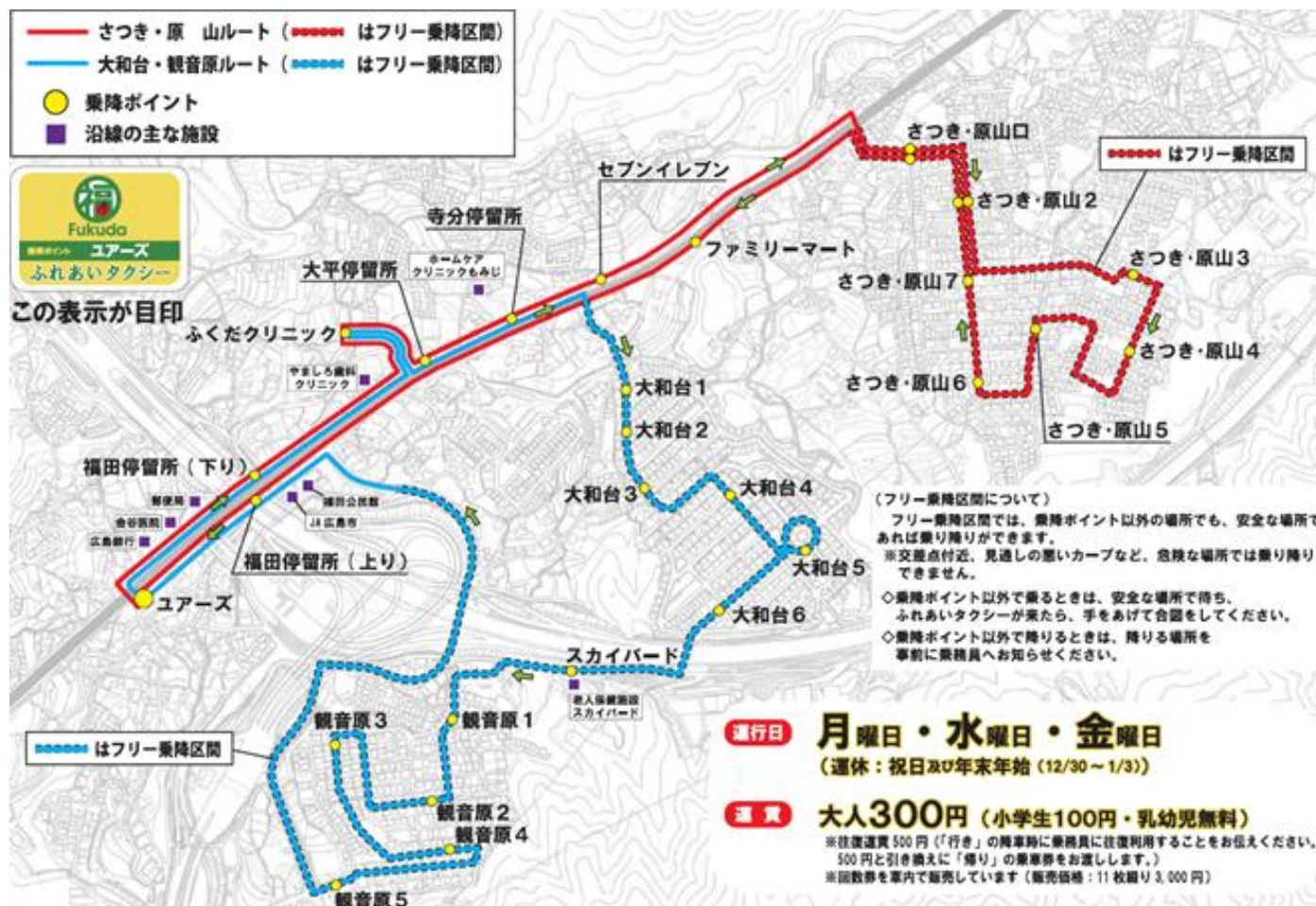
運行系統図 別紙

系統名	可部・亀山地区 系統1,2
運行形態	4条路線 定時定路線型
運行日・便数	系統1(青線) 月・水・金 各日1便 系統2(赤線) 月・水・金 各日4便
運賃	大人300円、小学生100円、小学生以下無料(保護者同伴に限る)



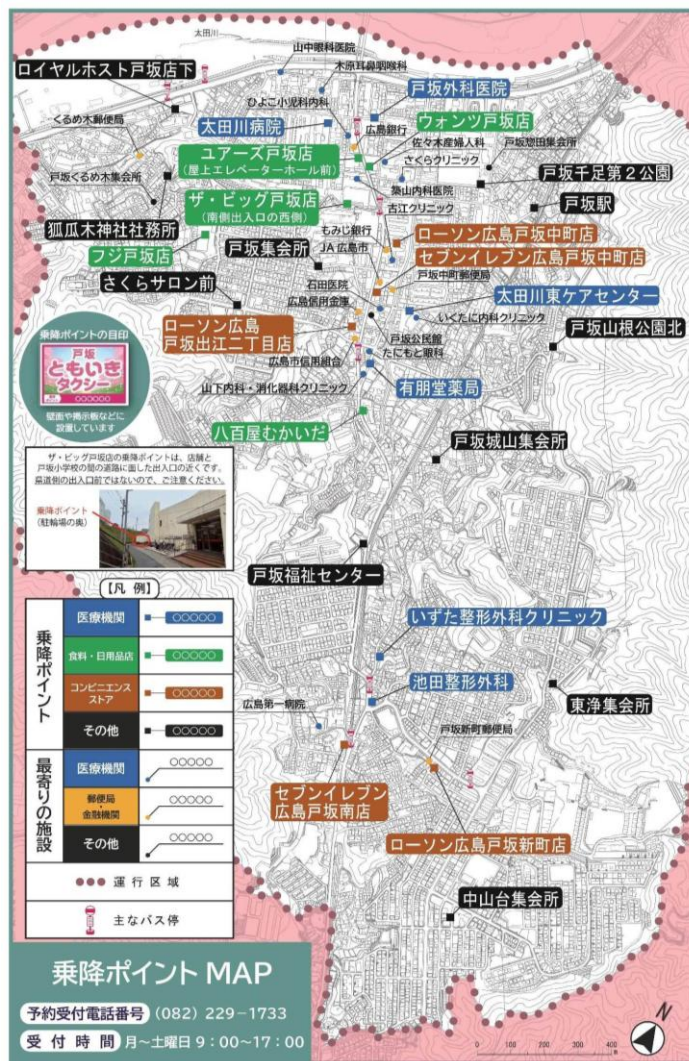
運行系統図 別紙

系統名	福田地区 系統1, 2, 3
運行形態	4条路線 定時定路線型
運行日・便数	月・水・金 系統1(セブンイレブン～さつき・原山口～大和台1～ユアーズ) 各日1便 系統2(ユアーズ～さつき・原山口～大和台1～セブンイレブン) 各日3便、 系統3(ユアーズ～さつき・原山口～大和台1～ユアーズ) 各日2便 ※ 生活交通確保維持改善補助計画は、系統1及び系統3を同一の補助対象系統として取り扱う
運賃	大人300円、小学生100円(乳幼児無料)

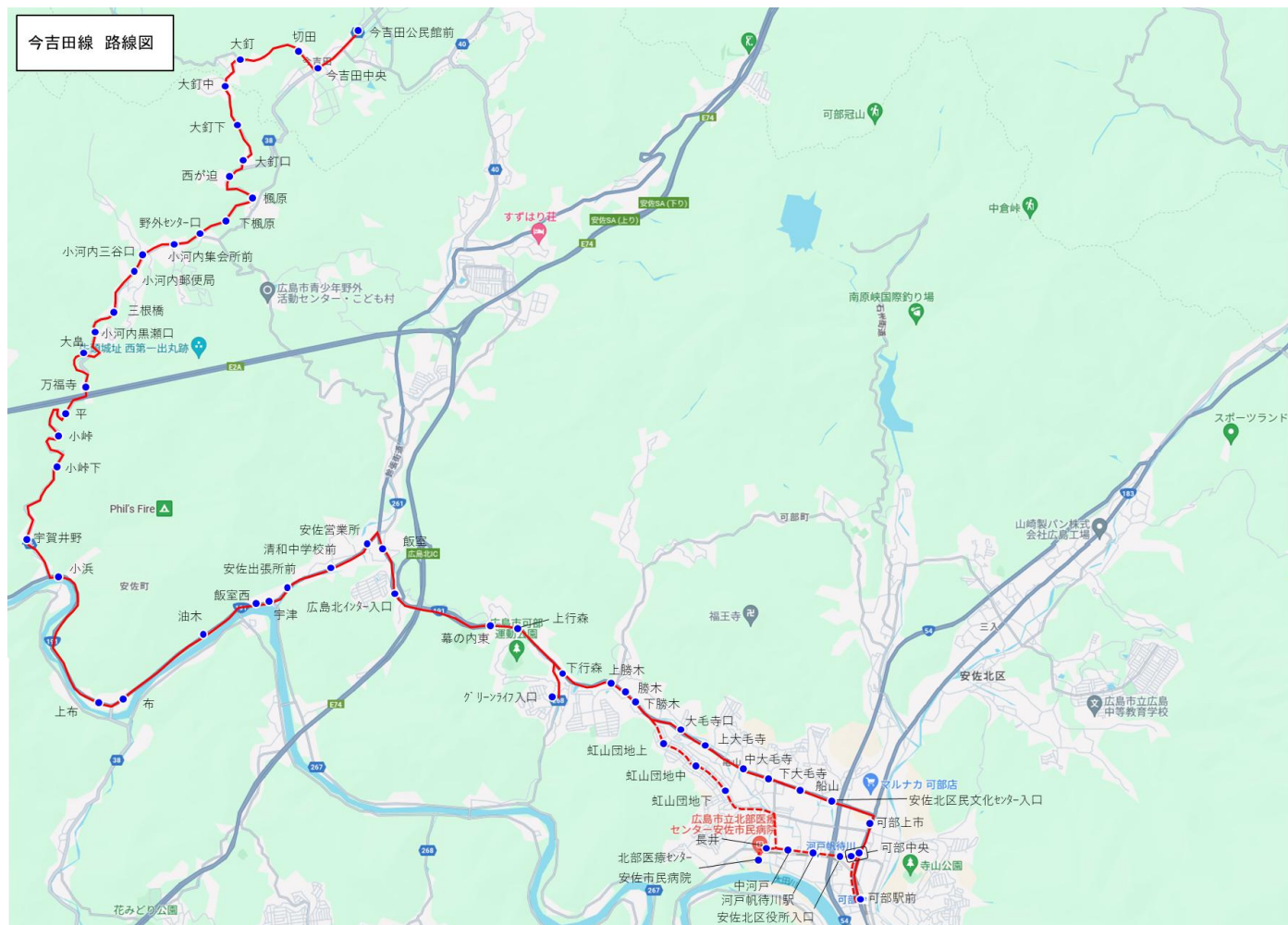


運行系統図 別紙

系統名 戸坂地区
 運行形態 4条路線 区域運行型
 運行日・便数 月・火・水・木・金・土
 戸坂地区 各日8便
 運賃 大人350円、小学生100円(乳幼児無料)



系統名	今吉田線(上大毛寺經由、北部医療センター經由)
運行形態	4条路線 定時定路線型
運行日・便数	上大毛寺經由 平日 各日6回、土日祝 各日4回 北部医療センター經由 平日 各日2回



運行系統図 別紙

系統名	阿戸線(501系統、502系統)				
運行形態	4条路線 定時定路線型				
運行日・便数	501系統(熊野営業所～阿戸学校)	平日	各日8回	土日祝	各日5回
	502系統(阿戸学校～フジ熊野店)	平日	各日4回	土日祝	各日5回

路線図

